

平成23年度総会 その他

平成23年度総会その他の行事が、平成23年5月29日(日)、ANAクラウンプラザホテル広島にて次のとおり開催されました。

日 程 表

行 事	日	時	場 所
1. 第48回全国支部長会	平成23年5月29日(日)	10:00~12:45	(於)ANAクラウンプラザホテル広島 3階 オーキッド
2. 物故会員慰霊式	〃	13:30~13:50	〃 〃 カトレア
3. 記念講演会	〃	14:00~15:20	〃 〃 オーキッド
4. 総 会	〃	15:30~16:50	〃 〃 カトレア
5. 懇 親 会	〃	17:00~19:00	〃 〃 オーキッド

1. 第48回全国支部長会

日 時：平成23年5月29日(日) 10:00~12:45
場 所：ANAクラウンプラザホテル広島 3階 オーキッド
出席者：各支部長等（別頁の通り）

井上専務理事

それでは10時になりましたのでこれから支部長会を開催したいと思います。開催に先立ちまして、このたび3月11日に発生した東日本大震災でお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りして、黙祷を捧げたいと思います。よろしく申し上げます。ご起立をお願いします。

【黙祷】

ありがとうございました。ご着席願います。

ただいまから広島工業会の支部長会を開催したいと思います。開催に先立ちまして、議長の選出をする必要がありますけれども、恒例ですと、工業会の会長であります高東が議長ということになろうかと思いますが、いかがいたしましょうか。

【拍手（異議なし）】

それでは高東議長、よろしく願いいたします。

(1) 議長挨拶

高東議長

それでは私が議長を務めさせていただきます。最初に、議長の挨拶ということになっておりますので、一言だけ、ご挨拶をしたいと思っております。いまも黙祷を捧げていただきましたが、いま私どもが聞いている範囲

では、会員の中に身体的な、直接的な被害はなかったけれども、いろいろなお苦勞、財産の毀損などもあったということを聞いております。その方たちが、できるだけ早く立ち直られることを願っております。

(2) 議事

①議事録署名人の選出

高東議長

次に議事録署名人についてですが、校内理事の藤田先生と瀧宮先生にお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

②各支部からの状況報告

高東議長

各支部の状況報告をいただくということですが、ここからは井上専務理事の司会で進めたいと思います。よろしく申し上げます。

井上専務理事

それでは全国の支部の状況報告をしていただきます。本日は35支部の方が参加していただいています。本当にありがとうございます。恒例によりまして、北の方から順に、1支部あたり2分間でお願いしたいと思います。

北海道（末宗）

北海道支部の末宗と申します。よろしく申し上げます。北海道支部は、名簿上の人数としては30名ほどですが、支部会に出席される方は10名弱という状況です。会員の方も少しずつお年を召してきておられて、また、北海道はけっこう広いということもあって、参加人数

は徐々に寂しくなっています。それに伴って、支部の活動もマンネリ気味になってきており、これからのようにして活性化していこうかと考えているところです。たとえば、各会員の所を順番に回ってみるとか、私は北海道大学に勤めておりますけれども、そういう所をご訪問いただいて、お互いの活動を知り合うとか、そういうことでもやってみようかなと考えています。もし良いお知恵がございましたら、教えていただき、この会議で何か得て帰れるものがあればと考えています。

井上専務理事

本当にありがとうございました。会員の件は、この会議の共通したテーマになるのではないかと思います。皆さんの話をお聞きした後で、またご意見をいただければと思いますので、よろしくお願ひします。

茨城日立（小辻）

茨城日立支部の豊田支部長の代理出席で本日参りました小辻と申します。昭和55年二類卒業です。よろしくお願ひいたします。茨城の日立支部でございますが、日立、おおみか、水戸といった、地域ごとの事業所・系列会社ごとに9つの副支部を構成しています。支部総員は95名です。支部の行事ですが、支部総会は開催しておらず、情報の伝達であるとか、懇親会、新人歓迎会を副支部ごとに行っているというのが実態です。23年度の新人歓迎会をどうしようか、大分停滞しているよね、と言っていたところに東日本大震災が起きて、日立では震度6強の揺れがあり、被災をいたしました。これにより、各工場が活動停止ということになりました。津波については、工場が海から離れていたために影響はありませんでした。建物については崩壊したところもあり、製品についても破損したのもあったのですが、通電すると使えるものがほとんどであり、皆様にも、日立の製品はぜひ安心して使っただけであればと思っております。本日は、皆様の活動を参考にさせていただいて、茨城日立支部の活性化につなげていきたいと考えていますので、よろしくお願ひいたします。

井上専務理事

支部の名前は茨城日立支部ということになっているわけですが、この中でいくつか副支部的な活動をされているということですね。非常に良いシステムではないかと思います。また、会員にはOBも含めるということになっているようで、非常に良い活動方法

ではないかと思ひます。皆様にはこの度の東日本大震災の影響についてもぜひご報告いただいて、皆様と情報を共有していければと思ひますので、先程は2分間と申しましたが、震災の影響を含めて3分、ということでもよろしくお願ひいたします。

関東（中田）

関東支部長の中田でございます。今回の地震で首都圏が致命的な影響を受けなかったということは、不幸中の幸いだったという気もいたします。金曜日の昼間ということもあり、首都圏の混乱も、最小限に抑えられたのではないかと思ひます。夕方になって郊外に帰ろうとすると、タクシーなどは5時間待ちというような状況だった訳ですけれども、タクシーの運転手さんに聞いてみると、高速道路に乗っても、誰一人としてクラクションを鳴らす人はいなかったそうなのでね。首都圏で働いている人たちが、地震慣れしているということもあるのですが、冷静に対応できていたということではないかと思ひます。関東支部は3,000人もの人からなる大きなまとまりなのですが、工業会にという形で情報が集まることはありません。役員さんとの個人的なつながりを通して情報が集まっているという状況です。活動状況については資料に記載の通りですが、関東では、支部総会と懇親会をできるだけ大事にしようということをやってきています。今までは会員のことをよくご存知の宮本さんという方に懇親会の司会などをお願いしてきたのですが、彼女も田舎に帰られ、これからは少し若者を中心にやってみようということで、昨年10月の懇親会は若い人を中心にやってみました。その結果、今までのマンネリから少し脱皮することができたのではないかと思ひます。また、首都圏では特にそうなのですが、学科単位の同窓会も盛んに行われており、そちらとの連携をどのように取っていくかも、これからの重要な課題だと思ひます。

横河電機（塩見）

横河電機支部の田村支部長の代理で参りました塩見でございます。よろしくお願ひします。震災に関してですが、私の会社は三鷹にあるのですが、3月11日は16時で会社が打ち切りになりました。ただ、JRが止まっていたので、家まで5時間かけて歩いて帰ったという状況です。その後の影響としては、部品の問題がやはり出てきました。現在は、部品をかき集めて、なんとか影響度を少なくしようという形でやっ

す。支部の報告としては、一年に一度集まっています。我々の支部には30人ほど会員がいるのですが、昨年の9月にはそのうちの12人が集まりました。会の名前は「遊鯉会」といまして、みなさんに近況をお話しただいたり、情報交換などを行っています。また私自身のことである、今回幹事を引き継いだということもあり、この2月に学生向けの企業説明会に参加するために、広島大学に久しぶりにお邪魔させていただくことができました。私は昭和62年卒業なのですが、私の在学中はそこら中に空き地があって、ソフトボールなどをしていた所に今では立派な建物が建っていてびっくりしました。会社が関東にあるということもあって、ここ数年は、なかなか新しい方に入っていただけないのですが、連絡を密に取って、これからも支部を盛り上げていこうと考えています。

静山（山本）

静山支部の山本でございます。山梨・静岡に在住の方で活動しようということでこのような名前をつけています。名簿上会員は193名いますが、連絡が取れているのが90名、そのうちちゃんと返事をくれているのが70名ほどです。うちの支部では4～5年前に参加者が減った時に、会費を安くし、会の運営を簡素化しようということをしました。具体的には、会費は徴収せず、年に一度の総会の時に開催される懇親会の費用の一部と工業会からいただいている支部援助費とで年間の運営をしています。そのため、以前は総会の時に外部から人を呼んで講演をしていただくというようなこともしていたのですが、ここ3年は、会員が自分の特技の話をするという形にしています。昨年は昭和49年卒の小山さんが陶芸に関するお話をしてくださいました。我々の支部では、静岡を東部・中部・西部に分けて、それぞれに支部長をおいて活動をしているのですが、こここのところ中部の活動が鈍ってきているので、いくつかの企業の方に声を掛けるなどして、活性化していきたいと考えています。

愛知県（衣川）

愛知県支部の衣川と申します。よろしく申し上げます。震災についてですが、我々の支部では直接的な被害はなかったのですが、ご承知のように、我々のところには自動車関連の大企業や関連企業がございまして、その工場などが、けっこう東北地方にあるのですね。そこが被害に遭ったために部品がなかなか入ってこないということで、まだ回復には至っていないとい

う状況です。また、浜岡原発の停止に伴って節電をしなくてはならないということで、自動車工業会が、7月から木曜日と金曜日を休日にすることにしました。それに伴って、自動車関連の周辺企業にも同様の動きが広がっています。支部の状況ですが、長い間役員が変わっていないので、少し若返りを図ろうかと考えているところです。現在支部の人数は487名ですが、古い方々の消息ははっきりしない部分もありますので、今年はその辺りも明確にしていきたいと考えています。総会は毎年11月に開いています。外部から講師を招くにはお金がかかるのでしておらず、私がミニ講演を毎年させていただいています。最近では支部会員の中で企業の常務役員クラスの方が出て参りまして、刈谷地区などではその方が音頭をとって懇親会を開催したりもしています。またうちの支部では支部報を発行してまして、連絡のつく会員の方には配布しています。

滋賀県（廣實）

滋賀県支部の廣實でございます。よろしく申し上げます。会員数292名ということでございますが、毎年6月の第2日曜日に支部総会をしています。総会は、10時から12時までを会議、12時から14時までを懇親会ということでやっています。また、現役の人を集めるためには仕掛けがある、ということで、いろいろな企画をしています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

大阪（中村）

大阪支部の報告をします。大阪支部では役員はできるだけ現役でということをやっています。工業会の会員数としては、大阪府下で1,600名ほどいますが、支部の会員になっていただいているのが100名ほどです。そのうち70歳以上の方が6割、平成年度の方が数名という構成です。活動としては、メール通信で季報を行っています。私と副会長の豊高さんとで関西フェニックスの会に役員として参加しています。昨年の11月22日に、キャリアセンターの森先生のお世話で、職業選択と自己実現という授業で講義をさせていただきました。また就職支援ということで、ハートンホテル京都で次年度卒業生とOBの方を集めて懇親会を行いました。支部総会は、震災直後の3月12日に開催し、12名が参加しました。今回は、平成年度の卒業生が2名くらい入ってくれて、とても活気があってよかったと思います。また今年度から、昭和36年度卒業以上の方につい

て永久会員制を導入しました。永久会員の卒業年度については、順次繰り下げていく予定です。本部の井上専務理事ともお話しさせていただいているのですが、京都府や奈良県、尼崎市については、工業会があまり活動されていないようですので、工業会会員の方に大阪支部に加わっていただけないかを働きかけていく予定です。

井上専務理事

先程の支部への入会・勧誘については、我々の方でできるだけ情報が得られ次第、またご連絡させていただきます。どうもありがとうございました。

神戸（平岡）

神戸支部の平岡でございます。神戸支部では総会には行っていませんが、小グループ活動主義という方法でやらせていただいています。3月11日の東北の大地震以降、阪神大震災のことが思い浮かぶわけでございます。非常に心情的に大変だということを感じています。これは実際にそういう体験をしたものでないと感じない心情というものがございます、自粛しなくてはいけないのではないかと感じているグループもいるわけでございます。花見酒を飲んでいる場合ではないだろうというわけですが、私の方からは、それはそうだけれどももっと自然体でやろうじゃないかと言って、いろいろな活動をやっているところです。震災に伴う大きな問題は、景気が良くないということなのだと思えます。神戸にはベルト、タイヤなどの部品メーカーが多くありまして、自動車産業がこけると皆こける、ということで、自動車産業に早く回復してもらわないと困るわけです。また、浜岡原発を止めたということは、東海大震災が起こるよということを総理大臣が認めたわけで、そうなると、東南海地震や南海地震もあるよということになるわけで、阪神大震災があったのでもうこれで終わりだと思っていただけれども、この先もまだ大きな地震があるのだという風に考えを変えなくてはならないということだろうと思えます。そのような中で、これから何をすべきかを考えていくことも、各地区の重要なテーマになるのではないのでしょうか。

岡山県（都）

岡山県支部の都でございます。支部長の代わりに出席いたしました。定例の県支部総会を昨年12月に開催しました。支部の活動の中身ですが、ゴルフ関係と小旅行の二つが大きな柱になっています。この話は去

年も報告されたと思うのですが、岡山の南地域一帯を河津桜で埋め尽くそうという話が岡山市の主導で進められています。我々もそれをバックアップしようということで、花回廊ゴルフコースというところで行われているチャリティゴルフに数年前から参加しています。桜の木を1本植えて、その根元に「広島工業会岡山県支部の誰それ」という名札が立っているのですが、そのようにして地元の人と一緒に活動しているということが、支部の活動での特記事項と呼べるのではないかと思います。

三井玉野造船デルタ会（矢定）

三井玉野造船デルタ会の支部長をやっております矢定と申します。メンバーは三井造船玉野事業所に勤務している広大の関係者ということで、工学部出身者に限定してはいません。企業内ということで、新入社員の出身大学が、個人情報保護の観点からなかなかわかりにくくなっています。ですが、こここのところ平成以降の若い方が毎年入ってこられていて、彼らが企画する形で、年に一回懇親会を開催しています。参加者数は10数名で、多くの方が30代以下という状況です。

福山（正木）

福山支部の報告をさせていただきます。昨年10月の総会で支部長を引き継ぐことになりました正木と申します。よろしく申し上げます。福山支部は、福山を中心として、北部は府中市、西部は尾道市、東部は岡山の一部、南部は島嶼部と、大変エリアの広い支部です。会員数は311名と、地方都市としては会員数が多いのではないかと思います。エリア内には大企業もたくさんございますが、それらもすべて福山支部に入っています。総会は毎年10月に行っています。中心になって活動していただいているのは、職域代表幹事と支部長指名幹事の合計22名です。彼らには、総会の運営、会員勧誘、新会員の情報収集などを行ってもらっています。

広島大学（小埜）

広島大学支部の小埜と申します。よろしく申し上げます。広島大学支部では、毎年支部長を交代するシステムをとっており、私はこの5月に渡邊先生に支部長を引き継ぎましたので、前支部長ということになります。現在の会員数は83名です。支部の活動としては、年一回ホームページを更新し、総会、懇親会を行っています。今年も、本部から井上専務理事、東広島支部長の河野さんにお越しいただき、本部情報や支部情報

の交換を行って、会員相互の交流を図りました。総会、懇親会への出席者は毎年20名前後です。今年の懇親会では、河野東広島支部長から支部間の交流をもっと活発にやりましょうということをお願いいただきましたので、今回は渡邊支部長のもとで、合同での懇親会などもできるのではないかと期待しています。この場をお借りして皆様にお願ひさせていただきたいのですが、工学部の志願者数が少なくなってきたので、お近くに受験生がいらっしゃる方は、ぜひ広島大学工学部への進学を勧めていただければと思います。あともう一点、博士課程への進学者数も伸び悩んでいますので、そちらの方も、ぜひ周りの方に勧めていただければと思います。

井上専務理事

今、支部間の交流というお話がありました、良いアイデアだと思いますので、ぜひ進めていただければと思います。私の聞いている範囲では、九州地区でも同様の支部間交流を進めているという話ですので、参考にしていただければと思います。

東広島（河野）

東広島支部の河野と申します。昭和51年卒業の精密工学科です。よろしくお願ひします。当支部は役員が若返りまして、非常に活性化しています。この場では、現在悩んでいる点を一点と、喜ばしいことを一点、話題提供させていただきます。悩んでいることは、新入会員の勧誘が進んでいないことです。会員数は157名ですが、年会費は半分ほどしか集まっています。喜ばしい点は、支部創設以来、初めて女性会員を迎えることができたことです。今度の総会と懇親会にはその方も来られるということで、支部内は沸いています。今後ともどうぞよろしくお願ひします。

バブコック日立（金本）

バブコック日立支部の金本です。当支部は企業内支部です。当社は呉地区を拠点としており、支部員は呉と安芸津に集中しています。支部の人員は、今年度4名増えて、62名になりました。支部の会合は、企業内の同窓会を兼ねての5月の新人歓迎会、12月の忘年会と、年に2回行っています。ただ例年、年末の会合は流れてしまう傾向にあります。昨年5月の会合には31名の参加がありました。うちの支部では、企業内支部ということで、連携はまずまずうまくとれているのではないかと思います。また先程から話題に出ている震災に関してですが、弊社の納入した火力発電所がいく

つか被災しております。これらにつきましては、速やかな復旧に向けて、支部員ともども尽力しているところでございます。

中国電力デルタ会（三浦）

中国電力デルタ会副支部長の三浦です。電気の昭和52年卒業です。鶴川支部長の代理でやって参りました。会員は3月末で110名おります。一時期100名をきったこともあるのですが、最近は盛り返しております。支部の行事といたしましては、9月か10月に会員だけで行っている総会と懇親会、それから1月には、会員に加えて、恩師の方、OBの方にもご出席いただいて、懇親会を行っています。今年は合わせて84名の方にご出席いただきました。支部の課題としては、この110名の会員を増やすこと、それから、総会、懇親会の出席を増やすことでありまして、今いろいろ知恵を絞って活動しているところです。

マツダ（野間）

今年からマツダ支部の支部長をさせていただくことになりました野間です。よろしくお願ひします。私は昭和59年卒業ということで、去年50歳を過ぎました。前支部長の森川さんの方から、なぜ私のような人間を支部長に推されたのかなあと思ったのですが、実は私は学生時代の研究室の担当教官からは研究室始まって以来の不良学生だと言われたのですが、それがマツダに入って、この場に出席させていただくようになったことで、広島工業会のメンバーの皆様にはいろいろと支えていただくことでここまでくることができました。先輩方にお知恵をいただきましたし、後輩の皆さんにもいろいろとバックアップしていただきました。そろそろその恩返しをしなくてはならない時期だということなのだろうと思い、支部長をお引き受けすることにした次第です。支部の規模としては、企業内支部としてはおそらく最大ではないかと思います。支部の行事は、新入会員の歓迎会とセットの形で行っています。ただ、会員数450名弱のところ、支部会には48名と、1割ほどしか参加していただけていない、まずはこれを打破していこうじゃないかということで、ここを私の目標としてやっていきたいと考えています。他の支部の方々とも交流をしながら努力していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

三菱重工広島（尾木）

三菱重工広島支部の尾木支部長の代理で参りました昭和57年卒の尾木と申します。うちの支部は会社の中

の支部でございまして、現在会員数43名でございまして。現在うちの会社では、取り扱っている品物が多岐にわたっていることから、それを分社化してやっていこうという流れになっています。昨年も広島からコンプレッサ部門が分社化したということで、会員43名のうち半数以上が、関連会社・グループ会社の社員ということになっています。そのため、会員間の交流の機会もだんだんと少なくなってきたという状況です。支部の行事ですが、昨年は総会を開催できていません。毎年1～2名の新規会員もおりますので、今年はその歓迎会を兼ねて総会をぜひ開催したいと考えています。

中国通信デルタ会（森）

中国通信デルタ会の森でございます。我々の支部は、NTTとNTTの関連企業、それとそのOBからなる支部でございます。会員数117名中現役が64名で、この数字だけを見ると現役の数が上回っているように見えますが、唯一の活動である支部総会への出席者数は18名で、そのうちの3分の2くらいが60歳以上と、寂しい状況が続いています。この辺りをどうしていくかが今後の課題となろうかと思っております。それらの大先輩の方々には了解を得ているのですが、来年は、工学部だけでなく、理学部や教育学部など、他の学部の卒業生も呼んで、現役の数を増やしていきたいと考えています。NTT西日本の本社がある大阪でも別途懇親会をしているのですが、こちらの方は、すでに他学部の卒業生を呼んでいて、40名ほどの参加が定着している状況です。

中電エデルタ会（白石）

中電エデルタ会の支部長をしております白石でございます。電気の昭和52年卒です。当支部は職域支部でございまして、会員数は14名と、おそらく一番小さな支部ではないかと思っております。課題といたしましては、平成13年から新入社員の方が当社に入ってきておられませんので、その辺りをどうするかを課題だろうと考えています。広島大学で開催されている企業説明会にも毎年参加させていただいているのですが、なかなか入っていただけていない状況です。活動としては、懇親会を5月頃に開催しています。ただ例年参加人数が少ないことから、今年の6月には、他の学部の方も入れて、懇親会をしようという風に計画をしております。

日本製鋼所（恵木）

日本製鋼所支部の石堂支部長の代理で参りました恵

木と申します。当支部は総員が55名で、そのうち工業会員が46名です。活動としては、年に一回総会を行っています。総会には石堂所長が出席されて、若い方と話をされているのですが、所長が出席されるということもあって、39名出席と、出席率は良いのではないかと思います。また先程から他学部の卒業生をという話が出ていますが、私どものところではすでに、総合科学部、経済学部、生物生産学部の卒業生とも一緒に活動をしております。

西川ゴム工業（米山）

西川ゴム工業支部の米山でございます。うちの支部は西川ゴムとその関連会社ということで、全部で57名の会員がいます。すべて現役です。年一回支部総会を懇親会と兼ねて行っています。今年は新入社員が3名おりましたので、また秋頃に開催する予定でいます。昨年は幹事の方がいろいろ努力されて、例年より少し多い、29名の参加者がいました。予算・決算は、資料に記載の通りです。今後ともよろしく願いいたします。

ヒロテック（信藤）

ヒロテック支部の信藤と申します。支部長の代理で参加させていただきました。支部の活動といたしましては、年一回、秋頃に懇親会を開催しています。現在メンバーが他学部の出身者を合わせて24名いますが、そのうち18名が参加している状況です。参加できなかったもののほとんどは、出張者、出向者で、ほぼ9割以上は出席しているということになります。出席率が高い理由の一つは、弊社のトップである鶴野会長が工学部の出身で工業会の会員であることで、会長が出席される場を休みづらい、ということもあろうかと思っております。また女性会員も4名ほどおりまして、これまでのところほとんど参加していただけています。やはり女性の参加率が高いと、全体の参加率も高くなる傾向にあるようです。出向者の中に、今年からメキシコに出向するメンバーがいます。実は彼は、毎年広島大学が参加している鳥人間コンテストのパイロットとして参加していたのですが、出向のため、今年からは参加できなくなるということです。

広島市役所（高廣）

広島市役所支部の高廣と申します。昨年の7月から支部長をしています。就任にあわせて、役員の若返りを図りたいということで改選をしたのですが、やはり年代的には50歳以上が中心で、若返りというまでには

至っていません。支部のメンバー数は、名簿上は100名ですが、出身大学などからこちらで勝手に登録している部分もあり、支部のメンバーとしての認識がある方はもう少し少ないのが実情です。総会への出席依頼は役員を通じてメールなどで行っていますが、前は50名と、徐々に多くの参加者を得ることができました。そのうち10名ほどが女性でして、市役所に新しく入ってこられる方のうち6割以上が女性ということもあって、メンバー中に女性の比率はこれからも増えていくのではないかと予想しています。

中国経済産業局（上田）

中国経済産業局支部の上田でございます。私どもの支部は、合同庁舎の中にごさしまして、ひとつの建物の中で完結するというので、こじんまりした人数でやっております。現在19名の会員がおり、そのうちOBが7名という状況です。現在、岡山大学の方に出向しているものが1名おりますが、その他にも産学連携には力を入れておりまして、山口大学、近畿大学工学部、広島大学などにも、局としては出向しています。活動としては、年に二回総会をしています。昨年は1回しかできなかったのですが、10月に開催しました。出席者はOBの方が1名、現役の方が10名程度出席し、いろいろと情報交換などを行っているという状況です。課題についてですが、平成15年に入局した新規会員がもっとも新しい会員でございまして、これから新しい会員が入ってくればなということを感じております。

熊平製作所（中村）

熊平製作所の中村と申します。当支部は職域の支部でございまして、ここのところ年二回の集まりを継続してやっております。会員集めというような、大きな支部のような苦労はないのですが、長年やっておりますとマンネリ化してまいりますので、麻雀大会であるとか、釣り大会、カーブの観戦とかを企画することで、多くの参加者を得ようと努力しているところでございます。

広島アルミ（三島）

広島アルミ支部の三島と申します。我々は広島アルミニウム工業という企業内の小さな支部でございます。会員数はOBを含めて32名です。支部総会は特には開催しておりませんで、年に一回、懇親会を開催して情報交換をしています。企業内といえども10拠点くらいございまして、それらの拠点から集まって話をする機会を設けているところです。若い方は仕事の

話を主にされ、年配の方は家族のことを話されたりしているようです。一昨年支部長を引き継いだのを契機に若返りを図り、その結果、昨年は9名、私よりも下の世代の方々が集まったのですが、そのあと年配の方に確認してみると、体調の問題などがあって、夜の活動はなかなか難しいということもあったようです。そこで今年は、昼の活動と夜の活動を、それぞれ行っていきたいと考えているところでございます。

周南（白神）

周南支部の支部長をしています白神と申します。私どもは地域の支部でございまして、会員数が222名でございます。年一回の幹事会と、隔年で行います総会が主な活動です。資料にもありますように、支部総会では、できるだけ本部から来ていただいて、本部の様子をお聞きする機会を設けるようにしています。昨年は専務理事の井上さんにお越しいただき、工業会の動きについてお話をいただいたところです。幹事会と総会はそれぞれ会費で運営しておりまして、通信費などの事務費は、本部からの支部援助費と、会費の残りで運営を行っているという状況です。また幹事会社を3社の輪番制で行っておりまして、今回は出光興産の方が幹事ということで運営をしていただいています。

山陽小野田（松脇）

山陽小野田支部の支部長代理で参りました松脇と申します。平成7年卒です。先日、平成3年入学ということで、入学20周年を記念してサークルの仲間と飲み会をして参りました。支部の活動についてですが、年に一回、忘年会を兼ねた支部総会をしています。内容は近況報告です。報告の内容も、家族の話やゴルフの話が多く、年を経るごとに皆さんだんだんとお酒の量が減り、たばこの量も減り、という感じで徐々に寂しくなっているのですが、これから何とか盛り上げていければと考えています。

徳島県（斎藤）

徳島県支部の事務局をやっております斎藤と申します。支部の報告の詳細は資料にございますので省略させていただきます。徳島県は小さな県ですが、70名以上の会員がおります。ただ、小さな県とはいっても、徳島市に集まるとなると1時間ぐらいかかるころもあるので、夜の会は無理なのかなあと、皆さんの話を伺って感じているところでございます。また先程も話がありましたが、工学部の中でも学科の集まり、私の場合は発酵ですけれども、こちらの方は割と集まりが

良いように思います。各学科の集まりと工業会の集まりをリンクさせることも考えてよいのではないかと考えているところです。先日も発酵の同窓会から名簿が送られてきたのですが、みなさん自分の出身学科の同窓会の方へはちゃんと近況報告をされているようなところもあるようで、我々のレベルでの工業会の名簿でのチェックはなかなか難しいですので、本部の方で照合をするなどのご考慮をいただければと思います。

井上専務理事

同窓会への取り組み状況は、学科によってずいぶん違うようにも思います。今後ともいろいろと相談に乗っていただければと思いますので、よろしく願います。

香川県（永岡）

香川県支部の永岡でございます。昨年から支部長を務めさせていただいております。出身が広島県の山奥のヒバゴンの里なのですが、香川県に住んですでに45年になります。今日は台風の影響で四国に帰れるかを少し心配しているのですが、簡単に状況を報告させていただきます。メンバーは236名おり、そのうち43名が総会に出席しているという状況です。最近は少しだけ増加傾向にあるのですが、その理由の一つは、役員に比較的若い会員を加えていることではないかと思えます。また、少しITを使ってみようということで、掲示板を開設しまして、最近になってそちらの方もようやく本格稼働を始めたという状況です。軌道に乗せる上で難しかった点の一つは、すべての会員が掲示板にうまく登録できるわけではないということでした、その辺りのサポートを、ここに記載してある若い役員の皆さんにさせていただいたということです。

高知県（多賀谷）

高知県支部の多賀谷です。我々のところは県が広くて、なかなか集まりにくいという状況にあります。会員は51名おりますが、集まるのはだいたい10名前後です。会員の中でも土木系が比較的多く、特に県に勤めているものが何名もおります。このたび東北の大地震があったわけでありましたが、南海地震もいずれ必ずくることははっきりしています。その中で、我々が何か地元に貢献できないかという思いが常にあります。私自身も、自治体と協力して活動をしているのですが、そういう点での防災に関するシーズが、残念ながら大学側には欠けているのではないかという気もいたしているところです。

福岡（恵本）

福岡支部の恵本でございます。我々もいろいろな試行錯誤をしているのですが、なかなか若い人が集まらないという悩みがございます。その原因を考えてみますと、福岡というのは大企業の支店が多いところがございます、その一方で、九州の支店が必ずしも福岡にあるわけではないということもございます。そのため、福岡そのものに定着されず、九州の他県や、あるいは大阪などにすぐに転勤になってしまう人が結構いらっしゃるわけです。そのあたりを打破するための施策として、久留米支部、熊本県支部の支部長さんたちともお話ししているのですが、近隣の支部とうまく連携して、佐賀県や長崎県など、いまカバーされていない地区の工業会会員の掘り起こしもしていければと考えているところです。

久留米（木下）

久留米支部の木下でございます。久留米支部と称しておりますが、構成メンバーは、福岡県南部のより広い地域に在住しております。メンバーは約40名、総会への出席は約20名です。所帯が小さいので、いつも和気あいあいとやっています。福岡支部や熊本県支部にもご案内を差し上げているのですが、毎年9月に総会と懇親会をブリヂストンクラブで行っています。会場にも恵まれ、また福岡の県南は昔から酒どころでございます、会員に蔵元が多くおられるため、彼らに酒を拠出していただいているところでございます。酒代がかからない懇親会ということが、先ほど関東の方もおっしゃっていましたが、一つの大きな地の利なのではないかとも思います。宴会では全員にマイクを回しまして、好きな事をお話いただくというスタイルをとっています。あともう一点、多少の余剰金があったので、この春の新しい試みとして、総会に出席していただいた方は懇親会参加費を無料にするということをやりました。なかなか好評でしたので、この方法はこれからもしばらく続けていければと考えています。

熊本県（古荘）

熊本県支部の古荘でございます。熊本県支部は昭和12年に設立総会をしたという非常に古い支部でございます。そのあとの記録はしばらくありませんが、昭和62年に復活し、現在に至っております。支部の活動としては、異業種交流ということ念頭においてやっております。支部の総会は毎年7月に行い、本日の支部

長会議の報告の他に、2～3名の方に専門分野のお話をさせていただくことをしています。会員増強は、なかなか思うようにはいっていません。先程からお話のしている三部連合についても、熊本県支部ではなかなか意気があがらず、努力を続けている状況です。

井上専務理事

これで35支部からの報告を終わります。皆様どうもありがとうございました。

高東議長

それぞれ支部の特性を活かしながら、工夫をしながら、会員間の交流に力を尽くしていただいていることに感謝いたします。これからもよろしく願いいたします。皆様からいただいたご意見については、しっかりふまえて、できるだけ対応策を考えていきたいと思えます。

井上専務理事

今回は、前回までの動きとは少し変わって、交流というものが目に見える形になってきたのではないかと思います。本部としても、そのような絆を深めていくことを考えて参りたいと思えますので、ご協力をよろしく願いいたします。

(3) 事務局からの連絡等

① 広島工業会会費納入状況について

・資料参照

② 平成22年度広島大学卒業・修了予定者就職状況について

・資料参照

(4) 工学研究院(科)・工学部の現状と今後の重点課題



広島大学大学院
工学研究院(科)長・工学部長
吉田 総仁 教授

まずは、このたびの東日本大震災で同窓の皆様、ご親戚や知人の方々等大変な被害に遭われた方、多数いらっしゃるかと存じます。心よりお見舞い申し上げます。今回の災害に対しまして、私ども広島大学として、どのようなことを行っているかにつきましては、後ほどお話をさせていただきます。

はじめに、まずこのきれいなキャンパスの状況をご覧頂きたいと思えます。

広島大学工学研究院(科)・工学部の現状と今後の重点課題



さくらなどの様々な花々も咲き、広島大学は現在日本の大学の中でも1、2を争うくらい広いキャンパスになりました。外国からのお客様なども、大変きれいで立派なキャンパスだと驚かれ、私たちも大変誇らしく思っています。ホームカミングデーなどで、すでにお越しいただいた方も多いかと思いますが、サタケメモリアルホール。平成15年に皆様のご寄付、それから株式会社サタケ様から大変大きなご貢献を頂きまして建てた建物で、約1,000名を収容でき、いろいろな大きな催しが可能な建物です。それから皆様が良くご存知の、旧東千田キャンパスからもって来ました広島大学工学部のいわばシンボルである門柱、工学部の周辺の並木道、新しいところでは、学生プラザという建物があります。学生の色々な活動、それから特に低学年といえますか、まだ研究室に所属していないような学生たちが集まって色々な自主活動ができるようにということで、学長が非常に尽力して平成22年4月に完成した建物でございます。このように大変きれいな立派なキャンパスができております。

それと、特にとりわけ工学部では、昨年の総会でも申し上げましたとおり、広島工業会様から多大なるご支援をいただきまして、フェニックス工房が平成22年4月に完成いたしました。このフェニックス工房は、学生のためのものづくり教育、活動のまさに中心となっています。

ここでワイヤーカットという加工機を使っておりますが、この加工機なども、広島工業会様からのご寄付により購入させていただいたものです。1階部分はこのような工作機械関係のものが中心ですが、2階は製図室、建築系の製図室や設計のための部屋で、建築の先生に伺ったところ、西日本で1番良い製図室ができ

たということで、皆さんに対して鼻が高いと言っておりました。このように学生の教育のための設備というものが大変充実してまいりました。



フェニックス工房がH22. 4に完成し、学生のためのものづくり教育・活動のセンターとなっています。



1階は主に機械加工・2階は建築系の製図・デザイン用です。

工業会様からの多大なるご支援ありがとうございました。



次は、1階部分で、工作実習をやっている風景です。後ほどまた少し申し上げますが、ここでは学生の自主活動ということで、人力飛行機などの大会を準備したりするための重要な活動拠点にもなっています。



フェニックス工房



実習風景

テスト飛行風景



次に3月11日に起こりました大変な大地震、その後の福島の原子力発電所の事故と、これは日本全体で大変な、人的それから将来に関しても心配な状況でございますけれども、このことに関して、現在広島大学としてどのように社会に対して貢献しているのかということをご報告いたしたいと思っております。

まずは、地震直後につきましては、学生の安否の確認と、特に留学生からいろいろな情報がよくわからず心配だという声もあり、特別に状況の説明会等、学内的にはまず致しております。幸いなことに、在学生につきましては、東北地方出身の学生が非常に少ないということもありまして、取り立てて人的な被害等があったという報告はございません。

広島大学が大変期待されておりますが、その後の原子力発電所の事故、放射線の問題で、そのことに関連して原医研、広島大学病院というのは全国でも特別な位置がございます。原爆関連の医療、要するに、放射線の人体に対する被害などに関する長い研究調査等をやっておりますので、このような被爆、緊急被爆の問題ということで、中心的な役割を果たしている訳です。そのことがありまして医師、放射線技師、看護師、事務員がチームになりまして発生直後から本日まで19班、延べ541名が現地にて活動を行っております。現在も続けておりますが、広島大学のホームページの中にも、どんな活動を行っているか詳細に掲載しておりますので、是非ご覧いただければと思います。

工学研究科では、ここでは1例を申し上げますが、本研究科には放射線関係の研究室がございまして、静間先生、遠藤先生の研究グループが広島の放射線の測定、それから福島放射線の測定とか、人体、工業製品の影響等について色々調査をさせていただいております。

福島原発事故関連の調査

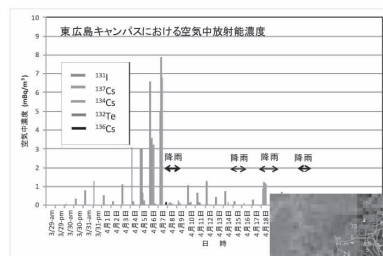
エネルギー・環境部門（機械物理学専攻）
量子エネルギー工学研究室 静間 清、遠藤 暁

1. 広島大学東広島キャンパスにおける大気中放射線の測定

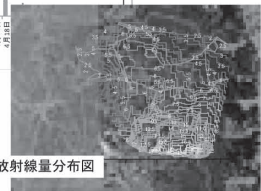
- ・3月20日から工学部で測定開始。3月30日に広島でも放射能を観測
- ・4月6日 マスコミに発表。また、広島大学ホームページに経過を掲載し、市民からの安全性についての問い合わせに対応
- ・4月19、20、22日 留学生のための風評被害防止の講演会で報告
- ・5月11日 教職員組合講演会「福島原発事故とその背景について」報告

2. 現地での放射線量調査と汚染マップづくり

- ・3月28-30日 現地調査グループに参加し、飯館村の汚染マップを作り、公開。→ 5月15日NHK教育TVで放映。
- ・4月8日 飯館村における積算線量を算出し、公表。朝日新聞1面(4/8)



福島県飯館村の放射線量分布図



こういう時期ですので、正しい情報を提供することは大変重要なことですので、そういった貢献をしてい

ただいております。

例えば広島大学キャンパスにおける空中の放射線濃度の測定や、福島県飯館村の放射線量の分布図作成等、現地調査グループに参加し役割を果たしていただいています。それから、工業製品に対する影響も調べて欲しいという依頼もあり、そういった点で産業界への貢献もしていただいている状況です。

また、学長が中心になりまして、全学に義援金を呼びかけました。現在報告がありました時点では、1,914万円、うち工学部では156万円が集まり、日本赤十字社を通じて被災地へ届けられることになっております。さらに、大学研究機関でも大変な被害を受けられており、特に研究者とか、大学院生などが研究場所や、研究機器に困るといった場合に、受入の可能性についての問い合わせもございまして、私たちは、「こういうところでしたら可能ですよ」というご返事を申し上げている状況です。ただ、広島は、かなり福島から遠いものですから、来てもらうには現実問題としてなかなか大変かなと思います。そういった情報提供も行ってあります。工学部、工学研究科は今後の被災地の再建、産業に対する影響の問題、これらに対する支援等について大変重要な役割を持っていると認識しております。安心安全社会の実現、それからエネルギー問題、これにつきましては省エネルギー、新しいエネルギー開発など今後日本が中心となって行わなければいけないことですので、こういった点で私たちが身を引き締めて今後研究という面で、大きな貢献をしていきたいと思っていますところではあります。

次に広島大学全体の状況を少しお話させていただきたいと思います。広島大学は変わらない5原則ということで、キーワードとして、平和、知の創造、人間性、地域社会・国際社会との共存、自己変革ということを考えております。

目標としては、世界のトップレベルの特色ある総合研究大学ということで、もう少し具体的に申し上げますと、特に工学研究科、工学部では、世界トップレベルの研究と、国際舞台で活躍できる人材養成を目標として、それを通じて、社会、産業界への貢献を果たしていきたいと思っております。現状ではどうかということで、これは正しい表かどうか分かりませんが、最近いろいろな調査機関が大学のいわゆるランキングを発表しております。こういうことに関して私たちが無関心ではられません。どのように世間から見

られているかということも少しご紹介をさせていただきたいと思います。まず、教育ということで、私たちは高等教育という、特にトップレベルのところの教育に強い関心と責任がございまして。例えば博士号を出した者はどのくらいいるかということ、やはり、東京大学がトップに来て京大、阪大と続き、広島大学はどこにいるかといいますと、329名で11位という状況です。

科学研究費補助金も同じような順番に大体なっておりますが、昨年と比べ10、11、12というところが少し入れ替わっておりますけれども、広島大学は12位であります。科学研究費補助金というのは、要するに研究のアクティビティと比例して政府が支出しているお金と理解していただければいいかと思っております。それから、実際、アウトプットとしては論文がどのくらい出ているかということで、これも11番目という状況でございます。

次に、運営費交付金、これは国から毎年国立大学に対して配分されるお金ですけれども、これは名古屋大学に次いで9番目です。これだけ私たちが国からも大変な期待と責任を任されているという状況でございます。



1-4 データに見る広島大学-資産・予算-

大学名	運営費交付金 (億円)
1 東京大学	853.1
2 京都大学	568.3
3 大阪大学	495.5
4 東北大学	479.2
5 九州大学	428.5
6 筑波大学	424.6
7 北海道大学	382.1
8 名古屋大学	336.7
9 広島大学	268.6
10 東京工業大学	217.9

工学研究科について少しお話をしますと、学生数は、学部学生が2,254人、大学院生が830人、留学生もかなりの数含まれますが併せて3,118人、大学全体で約16,000人いますので、学生数としては工学部、工学研究科で大体20%ぐらいを占めています。それに比べますと教員数の方は1割ちょっとで191名というような状況です。学位の授与、これは大学院でございますけれども、修士がかなり多い、これは広島大学の4人に1人の修士課程の学生は、工学研究科の学生という大変大きな所帯です。博士課程の方は、少し少なくなっておりますけれども8分の1ということです。

ここで皆様に少し申し上げたいのは、いわゆるドク

ターコースの学生が最近着実に増えているということです。これにつきましては、修士課程を終えて入ってくる学生、それから留学生、それと合わせて非常に大きな、約3分の1が、社会人ドクターでございます。この社会人ドクターの制度は、実際には会社で仕事をしながら、仕事に関連したり、場合によっては独自にテーマを持ったりしながら、ドクター論文をまとめていくというやり方です。ですから、会社を休職してドクターに来るという意味ではございません。私の研究室にも6名の社会人ドクターがおりますが、そのような方が増えておりますので、是非皆様の中でお勧めいただいて、特に、この同窓の方で、あるいは後輩などにそういったことに非常に関心があり、やっていくのに十分な活力のある方がいらっしゃいましたらお勧めいただきたいと思います。

それで、今度は工学部、工学研究科の組織についてお話をしたいと思います。

これにつきましては、学部の方は、第1類（機械システム工学系）、第2類（電気・電子・システム・情報系）、第3類（化学・バイオ・プロセス系）、第4類（建設・環境系）と変わっておりませんが、大学院の方の組織が今年の4月から大きく変わって、9専攻となっております。

これは昨年度もご説明申し上げましたが、いわゆる従来の機械、精密と、それから化学、応用化学と発酵工学、情報、電気というくくりと、土木、建築あるいは当時造船というものがありましたが、そういったものをすべてベースにし、リニューアルした形になっています。ただ、電子物性とバイオにつきましては、いわゆる工学研究科の兄弟にあたる研究科ですが、先端物質科学というところで独立なものを持っている状況です。新しい大学院の組織で1年やりました。このことで大幅な修士課程の定員増がありましたけれども、合わせて教育の改善をしております。

それで、特徴的なものは教育の国際化のために英語だけで講義、セミナー、論文作成をする英語によるプログラムを全ての専攻で開設しております。これにつきましては、始めたばかりですので、まだ必ずしも十分とは言えないのですが、昨年度は海外から14名の非常勤講師を呼びまして、学生たちにも大変人気のあるプログラムとなっております。今年度はさらにこの非常勤講師を30名くらいにしていきたいと思っている状況です。

新しい大学院組織における研究と教育

- 大学院では新しい9専攻(博士課程前期の定員増171→240名)において、カリキュラム改革も含めた教育改善(大学院教育の実質化)、融合領域プログラムの開設。
- 教育の国際化のために英語のみで講義・セミナー・論文作成をする英語プログラムの開設(H22年度には14名の海外非常勤講師による講義を開設。H23年度はさらに増員予定)。
- 教育に対する教員の弾力的運用を可能とするように、研究組織(教員組織)と専攻(大学院教育組織)に分離。
- 今年度から研究推進WGを設置して、国際的研究の活性化を推進。

次に、教育に対する教員の弾力的運用を可能とするように、教員組織と大学院組織を分離していることもありますが、このことの効果につきましては、もう少し時間がたってから出てくるのではと思っております。特徴的なのは、今年度から研究推進のワーキンググループを作って、特に国際的研究をみんなでやっていこうと、現在でも私たちが目指すのは、国際的に評価される研究ということですので、それをより一層進めて、そういうことを通じて旧帝大のグループと肩を並べてといえますか、その中でも下の方ではなく、そのグループ一体の中に入ったぐらいのアクティビティを当面、まず、すぐにでも実現していきたいと思っています。

学部教育に関しては、これもやはり国際的な教育、国際舞台で活躍できるということを意識しております。広島大学全体でも英語に関してはTOEIC®という資格試験がございまして、これに基準点を設けて、それに到達しないと卒業できないというシステムになり、2年後の卒業生から適用となります。

学部教育の課題

- 全学的な教養教育改革が進められ、工学部もその教育への積極的な参加を進めている。英語教育ではTOEICの卒業要件化。
- 教育プログラム、JABEE (Japan Association Board for Engineering Education : 日本技術者教育認定機構) プログラムに則った特徴ある教育。
- 従来の4類制についての再検討を開始する。

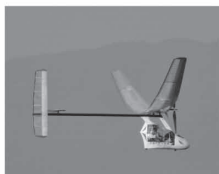
教育につきましては、教育のプログラム制、それからここにありますJABEE (日本技術者教育認定機構) のプログラムに則った特徴ある教育を進めております。先ほど、いわゆる学部の4類制度について申し上げましたが、これについてもだいぶ古くなりましたので、30年以上たちましたから、少し再検討の時期ではないかと思っている次第です。

国際交流については引き続き活発に行われております。特に学生の海外インターンシップです。それから海外共同研究学生派遣ということで、実際に海外の研究室と共同研究をするということで1ヶ月程度派遣して研究をさせる制度です。海外インターンシップは実際に海外にある日系企業でインターンシップをすることです。これは非常に教育効果が高く、帰ってきた学生は非常に成長してまいりますので、今後ますます力を入れてやっていきたいと思っております。

大学間の交流も現在いろいろなところと協定をしており工学部だけで41機関15カ国です。大学全体では121機関33カ国と国際交流協定をしております。

学生の自主活動としまして、フェニックス工房との関係で先ほど少しお話しましたが、長く続けていますのが鳥人間コンテストで8回連続出場しております。非常に残念であります、今年では出場ができない状況になっています。KAEDEについては、パイロットの事情です。飛行機には誰でも乗れるわけではなく、それに向けて訓練をした人が乗っていました。無論、この人は広島大学の卒業生であります。余人をもって代え難いパイロットでしたが、海外勤務となり、今年度の大会は断念することとなりました。今年度は来年度に向けて、いい飛行機を作るような方向で頑張りたいと思っております。

鳥人間コンテスト：学生による自主的活動例



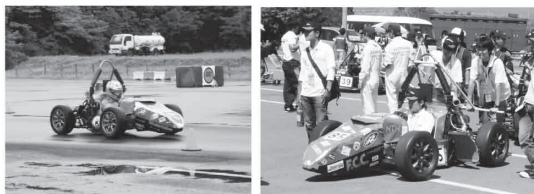
第33回大会(2010年)
日時:2010年7月24日-25日
会場:滋賀県・琵琶湖
人力70kg機子(スチール)部門 6位
広島大学工学部 HUES
記録:809.88mm



第33回大会(2010年)
日時:2010年7月24日-25日
会場:滋賀県・琵琶湖
人力70kg機子(Al-717)部門
広島大学工学部 KAEDE

それから学生フォーミュラは昨年度から参加しております。去年は初出場ながら70チーム中62位でありました。悪い順位であると思えますが、まずはここにエントリーして走れるだけでも素晴らしいことでもあります。なぜなら安全基準からすべてクリアしなければならないからです。だいたいのチームは初回は走ることができません。さらに最下位ではなく、62位ですから大したものでもあります。今年にはさらに期待したいと思

全日本 学生フォーミュラ大会



* 第8回全日本学生フォーミュラ大会
開催日:2010年9月7日(火)~9月11日(土)
会場:静岡県、小笠山総合運動公園
出場チーム:70チーム
総合成績:62位

* 本年度は下記のとおり開催予定です
開催日:2011年9月5日(月)~9月9日(金)
会場:静岡県、小笠山総合運動公園

います。

最後に我々工学部は産業界との連携、産学連携を通して教育や研究を進めていきたいと思っております。外部資金というのも増えていまして、工学研究科では政府からの資金も含めて8億5,800万円と大変大きなお金を獲得しております。引き続き産業界の皆様からのご支援をいただき、我々も貢献していくつもりで頑張りたいと思っております。

以上が全体の概要でございます。ありがとうございました。

講師 吉田工学研究院(科)長のプロフィール

- ◇現 職 広島大学大学院工学研究院(科)長
- ◇略 歴
- 昭和47年3月 東京工業大学工学部卒業
- 昭和47年4月 東京工業大学助手
- 昭和55年8月 広島大学工学部助教授
- 平成6年6月 広島大学工学部教授
- 平成13年4月 広島大学大学院工学研究科教授
(改組)
- 平成20年4月 広島大学産学連携センター長
- 平成21年4月 広島大学大学院工学研究科長、
工学部長
- 平成22年4月 広島大学大学院工学研究院長
(併任)
- 現在に至る
- ◇学 位 工学博士(東京工業大学)
- ◇専門分野 弾塑性力学、塑性加工学



末宗 北海道支部長



小辻 茨城日立
支部長(代)



中田 関東支部長



塩見 横河電機
支部長(代)



山本 静山支部長



衣川 愛知県支部長



廣實 滋賀県支部長



中村 大阪支部長



平岡 神戸支部長



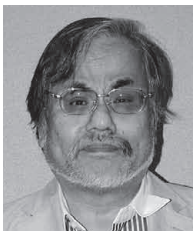
都 岡山県支部長(代)



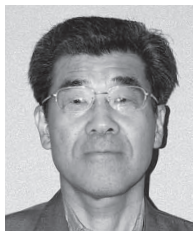
矢定 三井玉野造船
デルタ会支部長



正木 福山支部長



小埜 広島大学
支部長(代)



河野 東広島支部長



金本 バブコック日立
支部長



三浦 中国電力デルタ会
支部長(代)



野間 マツダ支部長



尾木 三菱重工広島
支部長(代)



森 中国通信デルタ会
支部長



白石 中電工デルタ会
支部長



恵木 日本製鋼所
支部長(代)



米山 西川ゴム工業
支部長



信藤 ヒロテック
支部長(代)



高廣 広島市役所
支部長



上田 中国経済産業局
支部長



中村 熊平製作所
支部長



三島 広島アルミ
支部長



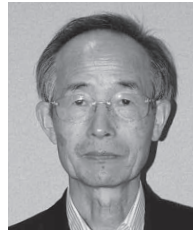
白神 周南支部長



松脇 山陽小野田
支部長(代)



斎藤 徳島県支部長(代)



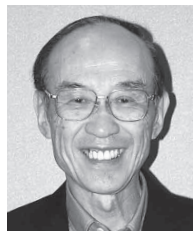
永岡 香川県支部長



多賀谷 高知県支部長



恵本 福岡支部長



木下 久留米支部長



古荘 熊本県支部長



高東 会長



羽山 副会長



井上 専務理事



藤田 校内理事



瀧宮 校内理事

第48回全国支部長会出席者名簿

(1) 35支部

(敬称略)

支 部 名	支 部 長 名	卒 科 年	備 考
北海道立東機山県	末宗幾夫	子 47	
茨城県日立	小辻宣俊	Ⅱ 55	代 理
関東機山県	中田雅資	建 41	
横河電機	塩見正幸	Ⅱ 62	代 理
静岡県	山本正広	機 47	
愛知県	衣川真澄	機 47	
滋賀県	廣實崇司	機 40	
大阪府	中村隆廣	Ⅰ 56	
神戸市	平岡鉄幹	応 32	
岡山県	都英次	機 42	代 理
三井玉野造船デルタ会	矢定孝之	Ⅳ 2	
福山大学	正木治郎	化 47	
広島大島	小埜和久	酸 46	代 理
東広島島	小河野安隆	精 51	
パブコック日立	金本浩明	Ⅰ 59	
中国電力デルタ会	三浦公章	電 52	代 理
マツダ	野間幸治	Ⅰ 59	
三菱重工広島	尾木哲夫	Ⅰ 57	代 理
中国通信デルタ会	森大一郎	Ⅱ 2	
中電工デルタ会	白石俊昭	電 52	
日本製鋼所	恵木忠雄	経 51	代 理
西川ゴム工業	米山昌一	経 52	
ヒロテック	信藤由紀夫	Ⅰ 59	代 理
広島市役所	高廣義明	経 53	
中国経済産業局	上田耕壯	電 53	
熊平製作所	中村正樹	経 49	
広島アルミ	三島万治郎	Ⅰ 60	
周山陽小野田	白神誠一	化 45	
徳島県	松脇和雄	Ⅲ 7	代 理
香川県	斎藤尚武	酸 43	代 理
高知県	永岡建城	精 41	
福岡県	多賀谷宏三	土 40	
熊本県	恵本繁茂	建 33	
	木下	酸 32	
	古莊信次	酸 36	

(2) 本部等 (7名)

吉田 総仁 工学研究院(科)長
井上 宣邦 専務理事 (電38)
鈴木 裕之 校内理事 (Ⅰ4)

高東 進 会 長 (電38)
藤田 聡 校内理事 (Ⅱ60)

羽山 信宏 副 会 長 (精46)
瀧宮 和男 校内理事 (Ⅲ1)